



井階 友貴氏

**地元の人々と対等な関係で
地域の課題を
所在から一緒に考える**

まずは、スポーツをはじめ何か趣味などをきっかけに、お互いに対等で自由に交流できる水平型のつながりを拡げていくことを意識してみてください。

地元の高浜では、[※]CBPRの観点から、行政や専門家、地域住民などあらゆる立場の人々がパートナーシップを築き、そもそもなにが問題なのか、なにができるのかをともに考え、健康のまちづくりを実行していくという流れ

をつくっています。

この流れの根幹となっているのが「けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ」略して「健高カフェ」です。たとえば、地域で唯一の小売店がつぶれたことで買い物難民となった住民を助けたという声から、週1回1時間だけですが、移動販売のスタートにつながりました。このように他にもここで話から、改善のための取り組みが実現されています。

また、住民への聞き取り調査やアンケートを通じて、生活の状況や地域的背景といった質的データを集めました。その情報を、自治体や医療機関が持っている量的なデータと統合や分析を行うことで地域の課題を探します。

**けっこう健康！
高浜☆わいわいカフェ**

フェイスブックでは活動の様子やイベント開催の告知なども行っています。ぜひチェックしてみてください！



活動をぜひ
チェックしてみ
てください！

地域診断のプロセス

- ①地域診断を企画する
 - ・目標、目的を明確にし、収集すべきデータをピックアップしておく
- ②量的データの収集
 - ・他の地域と/経時的に比較する
- ③質的データの収集
 - ・サービスの実態と満足度、価値、支援効果、地域性、伝統や文化、つながりや助け合いを聴取
- ④総合的に解釈する



日本公衆衛生学会 地域診断ガイドライン 2010より

他にも、健康の切り口から正しい判断を導いていく地域診断の作業も並行して行うことで効果が高まります。その結果をクイズ形式にすることで、興味がなくとも楽しく住民の方に伝えられたらという思いで開催している「クイズ100人に聞きたいな」も毎回盛況なイベントとなっています。

**「絆のパワー」で
まちに出るほど健康になれる
まちづくりを目指して**

現在、医療主体ではなく住民主体で取り組みを進めた結果、かかりつけ医を持つ人や健康行動をとる人が増えて

きました。そして、住民の皆さんがより健康に暮らしていくには、やはり自分たちがまち全体と関わっていかなくてはならないと考えています。

厚労省からは「地域共生社会」という新しい概念が打ち出され、「地域課題の解決力の強化」「地域を基盤とする包括的支援の強化」「地域まるごとつながりの強化」「専門人材の機能強化・最大活用」が重要な課題となってきました。そこに私たちの取り組みが影響を及ぼせばいいなと考えています。

今後も健康寿命だけでなく地域寿命を考えながら、これからも皆さんとともにまちづくりに取り組んでいきます。



井階氏の講演では福井県高浜町マスコットキャラクター「赤ふん坊や」も登場しました

※CBPR (Community-Based Participatory Research : 地域社会参加型研究)